

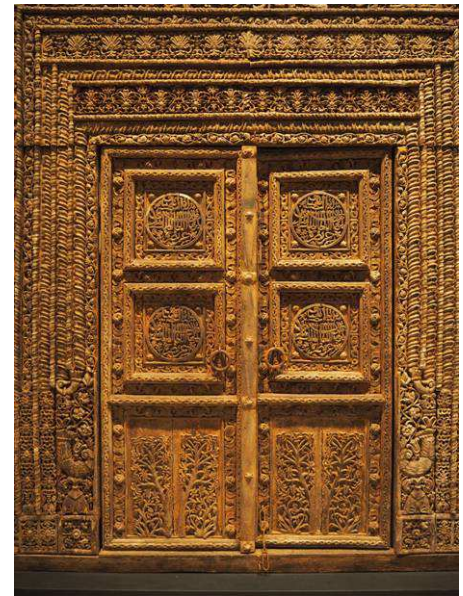
～ 木 材 は ど れ く ら い の 耐 久 性 か ～

■木材の寿命

スチールやコンクリートはイギリスの産業革命以降使われ始めたので精々二百年ほどしか経っていません。しかし既に壊れかけたものもあります。木は腐りやすく燃え易く長持ちしない材料と考えられていますが、正倉院(8世紀)や法隆寺(7世紀)は今も残っており、外国でも古代エジプトで使っていた椅子などが現存しています。

このように木材は環境条件が整っているときは耐久性が非常に高い材料です。樹齢2000年にもなるような樹木から取った材は2000年ぐらいの寿命があるとされます。代表的な京都、奈良を中心に全国に千年以上経った神社、お寺、民家が現存しており木が長持ちするのは歴史が証明しています。

長年使用した木製品や木造建築が使えなくなる原因は腐る、虫に食われる、材質が劣化して力を支えられなくなるなどです。腐朽やシロアリ被害は基本的に濡れた状態、湿った状態で起きるので、その条件で木材を使わないことが大切です。これ以外の木材の寿命を縮める原因は繰り返し乾湿の変化にさらされるときに伸び縮みがおきるためと、長時間または度々力が掛かっている時です。要するに使い方を間違わないと千年以上の耐久性があるということです。(佐道健著「木がわかる」より一部抜粋)



民博にて



747年創建の東大寺内部骨組み(奈良)



874年創建の醍醐寺(京都)